

〔研究ノート〕

グアム大学における語学研修の近状と今後の展望

Recent Status of English Programs at the University of Guam Along with Future Prospects

中村学園大学 流通科学部

池 田 祐 子

1. はじめに

2020年度は COVID-19 の感染拡大により、本学の海外研修および中・長期スカラーシップ留学による渡航は全て中止となった。2019年度に立ち上げた流通科学部グローバルリンクプロジェクトは、現地でのアクティブラーニングが軸となることから、9 月末時点での渡航中止勧告（感染症危険情報レベル 3）を受けて実施を断念し、2021 年度に向けてアクティブラーニング型海外研修の在り方を再考することになった。本稿では、過去のグアム大学における他学の研修事例と、新たな形態のオンライン研修について調査し、コロナ禍以降の海外アクティブラーニングの在り方を検討する。

2. グアム大学でのフィールドワークの近状

近年、グアム大学は日本の小学校から大学まで、多くの教育機関から短期語学研修生を受け入れている。ここでは秋田県立大学、多摩大学、龍谷大学、岡山理科大学、岐阜市立女子短期大学、そして専門学校から佐賀市医師会立看護専門学校、静岡福祉医療専門学校の事例を取り上げ、グアム大学におけるフィールドワークの可能性を探る。なお、流通科学部では未実施のアクティビティに限定する。

（1）グアム島持続的発展研究センター訪問とトリトン・ファームでの作業実習

研修生は、グアム大学の教授陣からグアムの

持続的発展農業と技術革新について特別講義を受け、グアム島持続的発展研究センターを訪問した。ここでは 99% のエネルギーを輸入、90% の食料を輸入しているグアムの環境問題、アイランド・サステナビリティと呼ばれる意識改革、リサイクル、コンポスト（生ごみから堆肥へ）の現状、キャンパスを走る電気自動車、再生可能エネルギーとしての風力発電と太陽光発電について学んだ。さらに、グアム大学附属トリトン農園ではアクアポニックスでのレタスの苗植えや、シュレッター用紙を利用した植物の根覆いなどの作業実習をした。（秋田県立大学 システム科学技術学部・生物資源科学部 2014, 2016）

（1）は、システム科学技術や生物資源科学を専攻する秋田県立大学の学生に適したフィールドワークである。また、研修生たちは現地でボランティア活動の情報を得て、パセオ公園クリーンアップ活動に参加しており、これが最も印象に残った活動であったと報告されている（高階 89）。

（2）キャプテン H. B. プライス小学校における日本文化の紹介

研修生はマンギラオ地区の小学校で、4 年生を対象に「日本文化の紹介と昔の遊び体験」を行っている。独楽、けん玉、折り紙遊びを通して現地の小学生と交流したことで、研修生は大

学の外で地元の人々に受け入れられたと報告している。研修生たちは小学生に英語で遊び方を説明し、実践指導をする必要があるため、英語での準備には真剣に取り組んだことが想像される。また、研修生はあらかじめ現地調査の研究課題を与えられているが、そのうち「グアムの文化」班は、小学生が伝統的なチャモロ語やチャモロダンスの授業を受けていることを知り、文化の継承について知見を得たという。(秋田県立大学 システム科学技術学部・生物資源科学部 2014, 2016)¹

(3) セント・ポール・クリスチャン・スクールにおける日本文化の紹介

研修生は幼稚園から高校まで同じ敷地内にある教育施設、セント・ポール・クリスチャン・スクールにおいて研修を行った。研修生は3歳児から5歳児のクラスに入り、子どもたちに日本の物語を英訳した絵本を読み聞かせ、折り紙を教えた。(静岡福祉医療専門学校 介護福祉学科・総合福祉学科 2019)

(4) 小学校・中学校・高校訪問と授業参加

研修生は地元の小・中・高校の授業に参加した。児童と共に課題に挑み、英語の授業に参加し、体育ではサッカーをした。またグアムにおけるITC教育の最前線について特別講義を受けた。(岡山理科大学 教育学部 2017)

(2), (3), (4)は地元の教育施設での研修で、基本的には教育・福祉を専攻する学科がプログラムに組みこんでいる。専攻の異なる秋田県立大学の研修生も訪問しているが、プログラムの調査研究課題に「グアムの高等教育」があることから、教育施設の訪問は妥当であると考ええる。

(5) 病院見学と老人施設での研修

研修生は老人施設の利用者と英語やジェスチャーでコミュニケーションを図り、異文化交流として紙相撲とつるし雛作りを行った。(静岡福祉医療専門学校 介護福祉学科・総合福祉学科 2019)

(6) グアム・リージョナル・メディカル・シティ病院見学

研修生はグアムの医療設備、医療費、国民の健康に関する意識、平均寿命などを知ることで、日本人は健康保険制度や医療設備の点で恵まれていることを学んだ。(佐賀市医師会立看護専門学校 2019)

(5), (6)が示すとおり、医療福祉専攻の専門学校生は病院や老人施設を研修先としている。

(7) グアム・プレミアム・チョコレート・ファクトリー見学

グアムの土産物店では「MADE IN GUAM」のチョコレートが人気だが、Guam Economic Development Authority (通称GEDA) の認可が下りた商品のみ、このGuam Product Sealを付けることができる。現地ではこの商品を生産するGuam Premium Chocolate Factoryの見学が可能となっている。(龍谷大学 経済学部 2018)

(7)のグアムのチョコレート工場見学には、龍谷大学経済学部の学生が参加している。流通・経済に興味のある学生が多い学科に適したアクティビティであると推測される。

以上のように、グアム大学で語学研修 English Adventure Programに参加する学校は、学生の専攻に応じたフィールドワークを取り入れて

1 ※岐阜私立女子短期大学も、2015年にグアムの小学校で折り紙指導を行っている。

いる。意外にもグアム大学のキャンパス外での学校訪問が多く、グアムの子供たちを相手に日本文化を紹介する機会が積極的に設けられている。なお、中村学園大学の学生が履修できる全学共通科目の「英語・文化海外研修」は、アメリカのデラウェア大学とオーストラリアのスウィンバーン大学で実施しているが、事前学習の一環として、グループごとに福岡の文化や歴史について調査し、現地の人々にプレゼンテーションを行うという課題を出している。しかし、プレゼンテーションの相手は学生に任せているため、ホームステイ先の家族や大学で知り合った学生など様々である。ここで取り上げた学校のように、現地施設訪問等の公式な機会を作り、プレゼンテーションやその後の共同作業までプログラムに組み込めば、学生の英会話を含む事前学習に一層身が入ることが期待される。

3. グアム大学における課題解決型学習の実践例

2019年度に実施した流通科学部グローバルリンクプロジェクトでは、学生を3つのグループに分け、「グアムの歴史と文化」「食料と流通チャンネル」「観光と地域経済」について調査させた。ここでは、事前に「グアム文化」「グアムの高等教育」「グアム島の持続可能性」「グアムの観光業」という4つの研究課題を与えられ、5つのチームに分かれてフィールドワークを行った秋田県立大学について詳細を見ていきたい。秋田県立大学では2012年からグアム大学が提供するEnglish Adventure Program (EAP) に学生を派遣し、2014年には特別講義や体験学習を多く組み込んだ独自性の強いプログラムを提供している。研修生はEAPの軸である英語講座に加えて、下記の錚々たる講師陣から講義を受けている。

- ・グアム島持続的発展研究センター副センター長
- ・グアム大学農業生命科学・熱帯農業科学教授

- ・ミクロネシア研究名誉センター長
- ・ミクロネシア考古学研究センター講師
- ・グアム大学考古学名誉教授
- ・グアム大学地域センター講師
- ・グアム大学社会学部教授
- ・グアム大学青少年育成センター講師
- ・グアム大学ビジネス学科准教授

なお、この一部は学部授業の聴講であり、研修生によっては内容理解が難しかったとも報告されている。しかし、研修生のための特別講義を担当した講師陣には、あらかじめ研修生の研究課題が伝えられており、動画や画像を多用した対話式のレクチャーが行われたことで、内容を理解できた研修生が多かったようだ。

さらに、フィールドワークについては、グアム大学の学生との協同作業の時間が設けてあり、彼らが大きな役割を果たしていた。日本でのインターネット調査では知りえなかったことを、グアム大学の学生とのディスカッションの中で知り、理解を深める手法が取られていた。特に「グアムの高等教育」という研究課題は、学生の専攻に関わらず興味を喚起するトピックで、グアム大学の教育自体が調査対象であることから、キャンパス内の様々な場所で発見があったことが窺える。

加えて、秋田県立大学の興味深い試みとして、英語劇の発表会が挙げられる。夕食時4回にわたって異なる劇の発表会が開かれ、グアム大学の学生を招いて披露する機会も設けられていた。これは小学校でのフィールドワーク同様に、研修生たちにある程度の緊張感をもって事前学習に臨ませるための効果的な試みである。

4. グアム大学が提供するオンライン語学研修

(1) 芝浦工業大学

2020年度のコロナ禍の中で、芝浦工業大学が夏休みの2週間、グアム大学と共同で行ったオンライン語学研修について概観する。Virtual

English Adventure Program と名づけられたプログラムは、Zoom を使って実施された。休憩を取りながら 9:00～13:30 までの 4 時間半の語学研修で、総学習時間は約 28 時間に達する。プログラム費用は \$450 で、1 クラスの人数が 9 人～18 人と、語学学校としては少し多めと言えるかもしれない。授業では一般的な英会話の他に、理工系のトピックに関連したものを扱い、授業以外でもグアム大学の学生との交流や会話セッションが含まれる。最初の授業で英会話のテストを行い、Beginner と Intermediate の 2 レベルにクラス分けされる。レッスンは Integrated Skills, Conversation, Reading Skills/Writing Skills に分かれ、語学研修に特化している。他学に先駆けて、グアム大学提供のオンライン海外研修を实践した貴重な事例である。次年度も渡航制限が続いた場合、この Virtual English Adventure Program を流通科学部グローバルリンクプロジェクトの要であるアクティブラーニングと、どのように組み合わせしていくのか、今後具体的に検討していく必要がある。

(2) Explore Program

グアム大学はこの秋、新たなオンラインプログラム Explore Program (Experience Learning Online Refined English) を立ち上げた。プログラムの特徴は以下のとおりである。

- Quick and easy lessons to improve your English by ESL instructors with years of experience
- Travel to Guam through cultural lessons and interactive activities
- Create friendship with University of Guam students through conversation exercises
- Registered students will receive a 15% discount

Explore と名づけられた 2 週間の短期研修は、

2020 年 9 月から 11 月にかけて、3 期にわたって実施された。月曜から木曜の 10:00～12:00 (日本時間で 9:00～11:00)、実質 8 日間のプログラムである。基本的には語学講座であるが、先の芝浦工業大学のプログラムとの違いは、アクティビティを通してグアム文化を学べることである。2019 年度に本学が現地参加した English Adventure Program の内容から、グアム文化とはグアム島の戦争遺跡やチャモロ文化の紹介、伝統舞踏のオンラインレッスン等が想像される。これらのオンラインレッスンは、先方から提供された教材や資料を元に行われるが、1 大学からの参加者が少ない場合は他学との合同オンライン授業になる可能性が高く、本学の与える課題調査を行うなど柔軟な対応は難しい可能性がある。2019 年度の研修でも、アクティブラーニングは中村学園大学の教員による引率指導を要したことから、完全にグアム大学に任せることは現実的ではない。仮に完全オンラインのグローバルリンクプロジェクトを実施する場合、グアム大学提供のプログラムと組み合わせながら、いかに学部の意向に沿ったインタラクティブなアクティビティをオンライン上で実施できるかが重要となるだろう。

5. 新しいオンライン留学

(1) COIL プログラム

中村学園大学では 2020 年度 COIL (Collaborative Online International Learning = COIL) プロジェクトが始動した。COIL は海外の大学との国際協働オンライン学習プログラムであり、ICT を用いた新しい国際交流の形として、あるいは既存の留学プログラムをより充実させる手段として活用が期待されている。本学での初年度は栄養科学部および短期大学部食物栄養学科の学生たちが、協定校であるハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジと Zoom でつないで、お互いの地域の食文化の紹介と、それを基にした調理実習を行っている。

相手校の学生たちが作成した調理動画を見て、感想を共有するオンライン・セッションを参観して思ったのは、両国の担当教職員が熱意をもって相手校の学生の学びに貢献しようとする態度の重要性である。英語が堪能とは言えない学生たちがオンラインで質疑応答を行うには教員の助けなしでは難しく、また協定校の学生たちも質疑応答のための周知な準備をしている様子ではなかったが、協定校の教員が中村学園大学の学生に適切なコメントや質問を投げかけ、要所所で議論を膨らませてくれたことで、学生たちは多くの学びを得ていたように思われた。アクティブラーニング型のプロジェクトにおいて、教職員の導きが研修の成功に大きく関わることは、現地渡航型でもオンライン型でも変わらないことを確認した。

(2) ハイブリッド型留学

コロナは他にも新しい形態の留学を生み出している。ここではハイブリッド型の語学留学について触れておきたい。ハイブリッド型語学留学とは、渡航前に自宅でオンラインの語学留学を開始し、渡航が解除されれば現地に赴き、従来通りの実地留学を行う方法である。日本では近年フィリピンを始めとする海外で英会話講師を雇い、日本人生徒は自宅で好きな時間に現地の講師とオンラインで繋がり、英会話レッスンを受ける「オンライン英会話」スクールが流行している。これらはマンツーマンが売りであり、受講生のレベルに合わせたレッスンを受けることが可能である。一方で、オンライン留学の場合はバーチャルな空間に教室を構築し、そこに世界各国からクラスメイトが集うことで、渡航前から海外の学生たちと共に学ぶことができるというメリットがある。ハイブリッド留学は、後半は渡航を想定していることから、中・長期の海外留学のために生まれた方法であるが、2、3週間の短期海外研修でも、協定校の協力があれば実行は可能であると考えられる。オンライ

ン授業を事前研修の一部とすることで、現地滞在期間を短くし、研修費用を抑え、より多くの学生がプログラムに参加できるようなら、一考に値する方法である。

6. おわりに

他学の海外研修の事例、およびコロナ禍における新たな留学の形を概観した結果、学生に適切な学びの場を与えるため、教職員協同での入念な準備が重要であることが改めて確認された。さらに、日常のあらゆる場面で学びとなる現地研修よりも、オンライン海外研修はいつそう学びの焦点を絞り、事前準備に力を入れる必要があると認識するに至った。しかし、最初から最後まで日本で完結するオンライン留学ではなく、出来れば後輩たちにも現地で学んでほしいというのが、留学半ばでコロナのために帰国して、日本で協定校のオンライン授業を受け続けた学生たちの声である。やはり現地での留学体験は何にも代えがたい学びの機会になると思われる。

グローバルリンクプロジェクトについては、現地研修が実現した暁には、旅行代理店やブライダルの日系企業訪問を検討していた。引き続き、流通学部の学生の関心に応えられるようなアクティビティを準備し、適切な事前学習および事後学習を組むことで、全学共通科目の「英語・文化海外研修」との差別化を図りつつ、アクティブラーニングとして実りある研修になることを目指したい。

また、米国を中心に約60の高等教育機関で活用されている BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) が本学に導入され、様々な海外研修の測定ツールとして活用されていることから、海外研修前後の学生の心理的变化の傾向も明らかになりつつある。本ツールにより得られる評価尺度への理解を深め、大学側が期待する教育効果を得られるようなプログラムの開発に向けて取り組んでいきたい。

参考文献

- 秋田県立大学 (2015)「グアム大学夏期語学研修報告集2014年9月7日～9月21日」
http://www.akita-pu.jp/up/files/www/renkei/kokusai/kouryusitu_news/20150428091538.pdf (2020.11.30)
- 同上 (2017)「グアム大学夏期語学研修報告集2016.9.4～9.18」
https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/renkei/kokusai/kouryusitu_news/20170216171552.pdf (2020.11.30)
- 岡山理科大学 (2017)「グアム大学研修2017」
<https://www.ped.ous.ac.jp/guam/> (2020.11.30)
- 国際交流基金 (2019)「グアム (2019年度) 日本語教育国・地域別情報」
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2019/guam.html> (2020.11.30)
- 佐賀県医師会立看護専門学校 (2019) 専門課3年生グアム語学研修
<https://saga-kangaku.jp/blog/000773.html> (2020.11.30)
- 静岡福祉医療専門学校 (2019)「グアムへ海外研修修学旅行に行ってきました！」
<https://www.can.ac.jp/fukushi/news/detail/?id=59> (2020.11.30)
- 芝浦工業大学 (2020)「芝浦工業大学、グアム大学と共同でオンライン語学研修を実施」
<https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00001255.html> (2020.11.30)
- 同上 (2020)「2020年夏期グアム大学オンライン語学研修実施報告」
<https://www.shibaura-it.ac.jp/albums/abm.php?d=462&f=abm00011348.pdf&n=2020summerUOGreport.pdf> (2020.11.30)
- 高階 悟 (2015)「グアム大学夏期語学研修と秋田県立大学のグローバル化への取り組み」『秋田県立大学総合科学研究彙報』16, 85-90.
- 多摩大学経営情報学部 (2014)「多摩大生の多様性強化のための『初めての海外旅行』調査研究」
https://www.tama.ac.jp>smis_collaborative_research2014 (2020.11.30)
- 中村学園大学 (2020)「COIL Project TSUBOMI～ITCを活用した国際交流～」『令和2年度第3回国際交流委員会』
- 西谷元 (2020)「BEVI フォローアップセミナー」於：中村学園大学 2020年12月11日
- 留学ジャーナル (2020)「オンラインから始める新・留学。「ハイブリッド型留学」で学びをスタートさせよう」
<https://www.ryugaku.co.jp/column/2020/09/hybrid1.html> (2020.11.30)
- 龍谷大学 (2018)「海外フィールド研修」(グアム)の現地研修と報告会を実施【経済学部】
<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-1758.html> (2020.11.30)
- BEVI (2020) <http://jp.thebevi.com/> (2020.11.30)